

くめだかいぶきやまこふん かぜふきやまこふん
久米田貝吹山古墳・風吹山古墳に眠る武人

松木 研太

みなさん、初めまして。2024 年 4 月より、岸和田市教育委員会郷土文化課へ配属されました松木研太といいます（図 1）。郷土文化課では主に文化財に関する業務を行っており、埋蔵文化財の発掘調査も担当しています。

ここで少し自己紹介したいと思います。私の出身地は大阪府藤井寺市であり、世界遺産の古市古墳群があることで知られています。日々古墳に囲まれて過ごしていたので、自然と古墳に興味を湧くようになり、将来は考古学者になりたいと思っていました。高校卒業後、考古学を学びに大学へ行くかと思いきや、考古学とは真逆の航空自衛隊へ入隊し、約 3 年間自衛隊にて国防に従事した後、考古学を学びに大学へ入学し、ご縁があって岸和田市へ採用されたわけです。

では大学で何を学んでいたかという、地元が古墳群であることから古墳について、自衛隊にいたことから軍事系について、そして家の近所にある「野中古墳」という古墳から大量の甲冑が出土したことを合わせて、古墳時代の軍事組織及び甲冑をテーマに研究しました。

古墳時代にも甲冑があるのかと思う方がいるかもしれませんが。甲冑といえば戦国時代の武将や鎌倉時代の武士のものを思い浮かべる方がほとんどでしょうし、ましてや岸和田は南北朝時代から戦国時代にかけて多くの武将が足を踏み入れた場所ですのでそちらのイメージの方が大きいでしょう。しかし、大学時代に古墳時代の甲冑について研究していた身としては、ぜひ皆さんに岸和田市内から出土した古墳時代の甲冑のこと、そして久米田貝吹山古墳（貝吹山古墳）・風吹山古墳に眠る武人のことを知ってもらいたいと思います。岸和田市池尻町に位置する貝吹山古墳と風吹山古墳は、久米田古墳群を構成する代表格といえる古墳



図 1. 横穴式石室を調査する筆者
(奈良県斑鳩町舟塚古墳)

です。副葬品の年代より、貝吹山古墳は古墳時代前期（4世紀後半）、風吹山古墳は古墳時代中期（5世紀初頭）と考えられています。この二つの古墳からは甲冑が出土しています。貝吹山古墳からは小さい鉄の板をつなぎ合わせた小札革綴こざねかわとじかぶと冑が、風吹山古墳からは三角形の鉄の板をつなぎ、正面の先端が角の形状をした三角板革綴衝角付冑さんかくいたかわとじしょうかくつきかぶとと長方形の板と帯金と呼ばれるフレームでつなぎ合わせた長方板革綴短甲ちやうほういたかわとじたんこうがそれぞれ出土しています。

貝吹山古墳の小札革綴冑は、先行研究により古墳時代前期（3世紀末～4世紀中頃）に主に畿内の古墳に集中して散見されるものとされ、国内において出土例が約20例という数少ない物です。その背景として、当時の国内では甲冑製作技術が未発達であり、中国大陸から輸入していたため、十分普及していなかったという説が有力です。特に貝吹山古墳の冑は、畿内で最も南からみつかっており、かつ数の少ない冑を保有していたことから、泉州地方を治めていた有力者だったと考えられます。

風吹山古墳の甲冑は、いずれも古墳時代中期の物です。同一型式のものが畿内を中心に急激に増加したことから、この時期に国内で甲冑の量産体制に入ったことが示唆されます。甲冑が出土した主体部からは、ほかに鉄刀も出土しており、武人としての性格が色濃く反映されています。また古墳の立地を見ると、主軸の後円部方向の延長上から大阪湾を一望することができ、現在は明石海峡大橋まで見えることから、かつては瀬戸内海まで視認することができたと考えられます。このことから、この古墳の被葬者は海上の監視を行いながら、海外の使者との交易を行えるような人物像を想像させます。（図2）。

貝吹山古墳と風吹山古墳が近接して位置していることから、有力者の墓である「首長墓」の系譜があるとみられます。つまり、副葬品からみて貝吹山古墳から風吹山古墳へとの前後関係があり、その期間はおおよそ四半世紀あたりかと考えられます。しかし、小札革綴冑の年代は4世紀中頃と考えられており、貝吹山古墳の築造年代とはやや時代差があります。これについては先祖から伝えられたもの（伝世品）の可能性を視野に入れるとともに、貝吹山古墳の築造年代についても十分に検討する必要があります。

貝吹山古墳と風吹山古墳の時代差は、先述のとおり親子関係ぐらいでしょうか。そうだとしたら、被葬者は古代よりこの岸和田の地を治め、時には甲冑を身にまとい暴れまわっていたのかもしれませんが。あくまでも想像ですが...

現在は、展示施設がないのでスポットが当たりにくいのですが、岸和田にはまだまだ皆さんの目に触れていない考古資料が眠っているので、これを機にどんどん再発掘し、みなさんに興味を持っていただけるように頑張ります。

（まつき けんた 岸和田市郷土文化課文化財担当職員）



図2. 風吹山古墳被葬者像
（筆者作成）

岸和田で見られるキツツキのなかま

風間 美穂

キツツキのなかまは世界から200種以上が知られ、岸和田市内では5種が確認されています。全長の大きな順に並べると、アオゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、アリスイ、コゲラとなります。キツツ

キという森の中に生息している印象が強く、その姿を見るのは難しいように思われますが、種類によっては身近な公園や校庭でも見られます。今回は、岸和田で見られるキツツキのなかまを紹介しましょう。(写真提供：中村進氏)

●アオゲラ (全長 29cm 図 1)

和泉葛城山や牛滝、塔原、神於山などの山地で1年中見られ、繁殖も確認されています。名前の由来は、背中が緑色なことです。日本固有種なので、海外のバードウォッチャーには人気があります。全国的には増加傾向にあり、ここ数十年の間に市街地にある緑地でも見られるようになりましたが、岸和田の町中ではまだ確認されていません。山の中で「ピョウ！ピョウ！」というよく通る声が聞こえたら周りを探してみてください。

●オオアカゲラ (全長 28cm 図 2)

和泉葛城山では1年中見られ、ブナ林内では繁殖も確認されています。オスは頭頂が赤いのにに対し、メスは黒いことで雌雄を判別できます。アカゲラによく似ていますが、胸から腹にかけて黒い縦型の斑点があるのが特徴です。

●アカゲラ (全長 24cm 図 3)

和泉葛城山のほか、神於山などの里山でも確認されていますが、数は少ないようです。大阪府では冬から春に確認される「冬鳥」とされていますが、近年は夏でも確認されるようになってきました。オオアカゲラと同じく、オスは頭頂の一部が赤いのにに対し、メスは黒いことから雌雄が判別できます。

●アリスイ (全長 18cm 図 4)

秋から翌年春にかけて見られるキツツキのなかまですが、姿はあまりキツツキっぽくありません。名前の由来はアリがおもなエサ生物であることで、地上にあるアリの巣に長い舌を入れ、卵やサナギをからめとって食べます。この5種のなかで唯一、木をつつかないキツツキのなかまです。岸和田では、春木川緑道や中央公園で確認されたことがあります。

●コゲラ (全長 15cm 図 5)

1年中見られるキツツキのなかまで、町中の公園や校庭でも繁殖していることがあります。「ギー」という、ゼンマイを回したときのような声で鳴きますが、あまり大きくはありません。体が小さいので生木ではなく、枯れ木に穴を開けて繁殖します。蜻蛉池公園でよく巣が見られます。



図 1. アオゲラ

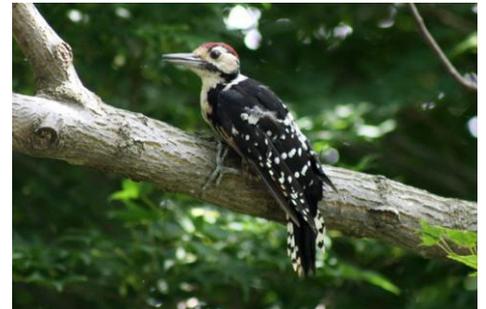


図 2. オオアカゲラ



図 3. アカゲラ



図 4. アリスイ



図 5. コゲラ

Information

●自然資料館企画展

『みんなで探して科学する！大阪湾のウミウシ』

(2025年2月22日～3月23日)

きしわだ自然資料館と大阪湾ウミウシ観察会が協同で行っている大阪湾におけるウミウシの調査とその研究成果を、生体や模型の展示を通して紹介します。会期中は、顕微鏡で小さなウミウシを見るイベントなども行います。本企画展は船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の支援を受けて実施します。

会 期：2025年2月22日（土）～3月23日（日）

開館時間 10：00～17：00

休館日：祝日を除く毎週月曜日・2月25日・2月28日・3月21日、3

※3月1日は研究会開催のため一般の見学不可。

場 所：きしわだ自然資料館 1階ホール

入場料：無料

協 力：公益社団法人大阪自然環境保全協会大阪湾ウミウシ観察会



●自然資料館のおすすめ書籍

『新 写真でわかる磯の生き物図鑑』

(2023年5月発行)

磯にすむさまざまな動物や海藻を紹介した図鑑です。企画展で紹介するウミウシをはじめ、大阪湾の浅瀬でよく見られる種は概ね網羅されています。他にも磯での観察の仕方や潮汐の仕組みなど学校での活動のなかでも参考になる情報が充実しています。自然資料館のミュージアムショップでも販売しています。

問合せ：きしわだ自然資料館



【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や地誌に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5

きしわだ自然資料館

TEL:(072)423-8100

FAX:(072)423-8101

Email:sizen@city.kishiwada.osaka.jp

自然資料館ホームページ:

<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。